

『学び合い』 体育における学習者の安全面に関する行動の研究

内田 祐介*・西川 純**

(平成28年10月11日受付；平成29年4月17日受理)

要 旨

本研究の目的は、西川の提唱する『学び合い』の考え方のもと、体育の学習を進める過程で起こる、学習者の安全面に関する行動について明らかにすることである。マット運動の単元において、学習者集団全員が達成することを求める課題を提示する。学習者全員が共通の課題に向かって学習を進める様子をビデオカメラやボイスレコーダーで記録し、学習者の安全面に対する行動について分析を行った。その結果、学習者は教師の具体的な指示がなくても、自分たちで安全に対する配慮を行っていることが明らかとなった。

KEY WORDS

『学び合い』, 体育, 安全面, マット運動

1 問題の所在

平成20年1月17日、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」において、「豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実」が記され、学校体育指導における一層の充実が求められている¹⁾。

よい体育授業について高橋(1994)は「目標が十分に達成され、学習成果が上がっている授業」と定義し、それを成立させる条件として、学習者の情緒的解放や教師及び学習集団の肯定的なかかわりによって生み出される「授業の雰囲気」が重要であると述べている²⁾。よい体育授業の条件である「授業の雰囲気」について米村ら(2004)は「子どもの人間関係行動によって生み出される雰囲気は、教師のそれ以上に強く学習成果に影響する」³⁾とし、学習者同士の相互作用や肯定的なかかわりの重要性を示している。

学習者同士の相互作用を最大限に生かした授業形態に関して、西川(2004)が提唱する『学び合い』の考え方がある⁴⁾。『学び合い』とは、学習者集団に達成目標となる課題を明確に設定し、教師による直接的な指導を極限減らすことにより、学習者同士の自由な交流を中核として学習を進める授業形態であり、これまで、『学び合い』に関する多くの研究が行われている。

杵淵(2006)は、社会科の単元の全てを子どもに任せ、教師による直接的な指導をなるべく控え、学習者同士の相互作用によって学習を進めたところ、学習者集団は、自分達で毎時間の学習のめあてを設定し、めあてに向かって学習を進めていくことを明らかにした⁵⁾。学習者の目標の決定に関して杉本(2003)は、「目標の共有によって他者への協力と自己の目標の設定が行われる」とし、共通の目標が他者を意識させることを明らかにした⁶⁾。杵淵、杉本の研究は、各教科の単元を学習者に任せることにより、学習者が他者の存在を意識しながら、共通の目標を達成するために、自らの行動を変容させ、学習を進めていくことを示唆している。

さらに、『学び合い』の考え方にもとづいた体育に関する研究に栗田(2005)の研究がある⁷⁾。栗田は、教師が集団の目標を設定し、自然に学び合える環境を整備し、学習者が主体となってお互いにかかわり合いながら学習を進めていくことで、積極的に学習に参加し、単元全体の活動時間が確保され、技能の向上や技術認識が深まることを明らかにした。また、学習者同士が多くのかかわりを持ち、感情におけるコミュニケーションを取ることができ、他者への理解など精神面での成長も促されることを示している。しかし、『学び合い』体育において、学習者が目標を共有し、自由にかかわり合う過程において、学習者の安全面に対する配慮やその行動について明らかとされていない。

そこで本研究では、西川の提唱する『学び合い』の考え方のもと、体育の学習を進める過程で起こる、学習者の安全面に関する行動について明らかにすることを目的とする。

*五泉市立五泉小学校

**学校教育学系

2 研究方法

2.1 調査期間

2010年12月14日～21日

2.2 調査対象

N県公立小学校第6学年（30名）

2.3 調査内容

・マット運動（集団マット運動）

※集団マット運動とは、できる技を駆使し、集団で一つの演技を行うマット運動のことである。

2.4 調査方法

・ビデオカメラを会場図のように3台設置し、定点から体育館全体を記録した。

・学習者一人ひとりにボイスレコーダーを装着し、集団マットにおける学習者同士の話し合い場面の会話を記録した。（安全面を考慮し、実技場面ではボイスレコーダーをはずす。）

・授業者や観察者にボイスレコーダーを装着し、教師と子どもの会話を記録した。また、観察者のボイスレコーダーで、学習者の実技場面の会話を記録した。

・記録した映像や会話から、一つのチームに着目し、学習者の安全面に関する行動について分析を行う。

2.5 活動内容

単元名：集団マット

チーム数：4チーム（7～8人で構成）

→学習者同士で話し合い、チームを編成。

・後半5時間分の授業実践を『学び合い』で行う。

・集団演技を練習する4時間を調査対象とする。

時間	活動内容
2	個人の技の確認，チーム分け
4	集団演技の練習，個人技の練習
1	リハーサル，集団演技の発表会

① 活動の流れ

<本単元を通した課題>

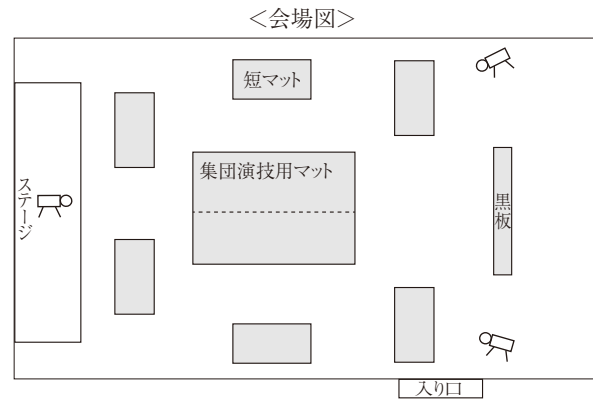
昨年の集団マットの演技よりも、見た人を感動させることができる演技をみんなで創りあげる。

<1時間の流れ>

	学習活動
導入	○教師の語り
展開	○課題を確認する。 ○集団マットの練習を行う。 ・各チームが6～8分間で交代しながら、集団演技用のマットで練習を行う。 ・短いマットで個人技の練習を行う。 ・演技構成の話し合いを行う。
終末	○本時の振り返りを行う。 ・振り返りシートを書く。

② 学習環境の設定

- ・体育館の中心に集団演技用のマットを用意する。
- ・集団演技用のマットの周辺に個人技用のマットを用意する。
- ・体育館の壁に技のポイントや練習方法を可視化する。
- ・体育の教科書や参考書、資料などを用意する。
- ・各グループに1台ずつビデオカメラを配布する。



3 結果

3. 1 教師の安全面に対する学習者への指示

『学び合い』体育を通して、授業者が学習者に対して行った安全面に関する指示は以下の通りである。調査対象とした4時間分の語りから、安全面に関する部分を抜粋した。

まず、授業導入部の語りで、授業者が学習者に対して安全面に関する指導を行っている場面のプロトコルである。

＜1時間目＞

もちろん体育をやるので、一番注意しなくちゃいけないのが、ケガだと思います。先生自身も実は、小学校、中学校と器械運動をやっていました。で、その時にある友達が、バク転をしようとしたんですね。クラブチームでやってたんですけど。バク転をしようとして、けっこう誰も見てないところで、一人でやっちゃったんですけど、そしたら、肘が折れて、本当はこっちに曲がるんだけど、こっちに曲がっちゃったんですね。そして、そのまま、救急車で運ばれて、そしてその人は、そのままマット運動とかやるのが苦手になってしまったんです。で、皆さんには、絶対にそういう経験というか、そういう思いは絶対にさせたくないし、してほしいなと思います。なので、一人ひとりでそういう安全の、ケガをしないように、一人ひとりで、注意してできる、そういうのも、みんなで体育をやるメリット、良い点だと先生は考えてます。・・・(中略)・・・さっそく寒いんで、ウォーミングアップをして、時間無くなってしまったんですが、ウォーミングアップをして、すぐチームごとに練習をしてください。いいかな？で、さっきのケガの話なんですけど、寒い、そしてマット運動と言ったら、かなりの確率でケガをする危険性があります。なので、しっかりウォーミングアップをしてください。

＜2時間目＞

昨日と同じように安全にだけは注意してください。今日も十分、雪も降って寒いので、すごい積ってますが、すごい寒いのでしっかりウォーミングアップをして、ケガのないように全員でしっかり注意して、やるようにしてください。

＜3時間目＞

昨日見てて思ったことをいくつか、お話をします。まず、一番最初のウォーミングアップですが、皆さんすごくしっかりできてると思います。ウォーミングアップは、体を温めることとか、あと、マット運動で使う筋肉、伸ばしたり、筋肉を温めて、すぐ使えるようにすることが目的なので、いろいろ考えながらウォーミングアップの方、やっていってください。2つ目、少し昨日危ないなと思ったのが、昨日もちょっとお話したんですが、マットがずれて、少し隙間があいてしまうんですね。そこに、前方倒立回転跳び、ハンドスプリングですね。ハンドスプリングなんかをして、足を突っ込んでしまうと、捻挫したり、足を折ったりして、非常に危険なので、そういうところ、みんなでしっかり安全かどうか見合って、一人ひとりがちゃんと練習できるように心がけてみてください。

＜4時間目＞

それではみなさん、ウォーミングアップをしっかりしてから、練習してください。

次に、授業の最後の語りで授業者が学習者に対して安全面に関する指導を行っている場面のプロトコルである。

<2時間目>

見ていて気になったことがいくつかあったのでお話します。ちょっと、今日、マットの隙間があいてしまったり、技をやった時に、人とぶつかりそうになったりっていう場面が何回かありました。一番最初にも言ったんだけど、マット運動、ケガしやすいので、一人ひとりが周りを気にして、他の友達のことを気にして、練習をしないと、必ず事故につながると思います。なので、練習に熱中することも大切なんですけど、周りを見て、事故とかケガとかしないように、気をつけてやるようにしてください。

そして、授業展開部で授業者が学習者に対して、安全面に対する注意を行っている場面のプロトコルである。

しっかりウォーミングアップをしてからやってくれよ。激しい、激しい技は。

(2時間目授業開始10分5秒)

気づいてくれた?気づいてくれた?気づいてくれた?これ。マット隙間あいてますよ。

(4時間目授業開始8分00秒)

あの、アクロバティックな技をやるときは、一人がマットにいるときにすぐ来ないで。

(4時間目授業開始8分00秒)

以上のように、授業者は学習者に対して、安全に配慮することの重要性や一人ひとりが安全に注意しながら学習するように語ってはいるが、具体的な指示などは行わず、安全に授業を行うための方法は学習者に任せていた。しかし、授業者は、安全に授業を行うための方法を学習者に任せてはいるが、授業展開部において通常の体育授業と同様に安全管理を行っていた。

3. 2 学習者の安全面に関する行動の事例

3. 2. 1 学習者の安全管理行動の事例

学習者集団は、授業者が安全管理の方法を指示せずとも、安全に学習を行うための方法を考え、行動していた。

跳び込み前転の練習によって、マットと跳び箱の間に隙間が生じてしまう。次の試技者がその隙間に気付かずに技の練習を行おうとする。しかし、その様子に気づいた学習者が、練習を行おうとした学習者を制止し、座って見ていた学習者とともにマットを直した。



マットを直した後、座っていた学習者が、マットがずれたらすぐに直せるように、跳び箱の横に座り、安全管理を行い始めた。学習者集団は、お互いに安全かどうか見合うことで、本人の気付かない危険にも気付くことができ、より安全に学習を行うことができた。



3. 2. 2 安全な学習環境を作り出す事例

学習者は、安全に学習を行うために、自ら学習環境を変化させていた。

K : 次, Sちゃん。
 S : やだ。やらない。足痛い。
 W : 私も足痛い。
 (他の児童が学習環境の工夫を始める。)
 N : M, 前転して。
 M : えっ?
 N : マットやわらかいから。みんな並んで。
 ここに。
 C : Sちゃんも?
 N : Sちゃんも。みんな。
 S : 何すんの?
 N : できるはず。

上記のプロトコルは、学習者が他の学習者の様子を見て、より安全に学習が行えるように学習環境を工夫している場面である。練習を繰り返す中で、足を痛がり始めたSとMAの様子を見たNがやわらかいマットで学習環境を工夫し始める。学習環境を工夫し終えたNは、チームのみんなに対し、やわらかいマットだから出来ると述べている。学習者は、他者の様子から、どうすればより安全に学習が行えるかを考え、学習環境を変化させて、安全に配慮した行動を行っていた。

3. 2. 3 学習ルールを作り練習する事例

『学び合い』体育では、安全に学習するために方法については、学習者に任せている。それに対し、学習者集団はルールを作り、安全に学習が行えるように配慮していた。

N : よし、やろう。まず、昨日の流れからいくと…
 H : 跳びこみ前転の練習とかもやった方がいいよ。
 N : じゃあ、跳びこみ前転からやろう。できない人いないね?よし、やろう。
 M : はい、やろう。
 N : じゃあ、まず跳びこみ前転をやってみましょう。
 N : 一人ずつ。名簿の早い人から並んで。

授業の序盤にチーム全員で、前回のふり返しを行い、学習に入っている。このチームのリーダー的な存在であるNが本時の学習の内容を決め、また、ぶつからないように一人ずつ行うことと試技する順番を決めて学修を行っている。学習者集団は授業者が学習の方法を指示せずとも、学習者同士で安全に行うためのルールを設定し学習を行っていた。

3. 2. 4 学習者同士で注意し合う事例

安全に学習を行うにあたり、危険な行為に対して、学習者同士で注意を行っていた。

M : 俺がオリジナル前転やってやる。(学習者Mが危険な前転を行う)
 S : ねえー、またあれやってるよ。
 H : ねえー, M。
 W : ふざけないでよ。
 S : おい、やめろ。そんなん。
 W : けがするよ。
 S : やめろ。

学習者Mが、練習中に学習の内容から逸脱した行為を行う。それを見た他の学習者たちが、その行為を危険とみなし、注意を行っている。学習者たちは、お互いの学習の様子を見ながら、安全に学習を進めるために、危険な行為に対してはお互いに注意し、安全に配慮した行動を行っていた。

3. 2. 5 見学者の安全管理行動の事例

『学び合い』体育では、見学者も学習に参加することが可能である⁸⁾。本調査対象である全ての時間でも、見学者が出来る範囲で積極的に学習に参加していた。見学者の行動には、同じチームの学習者の安全に配慮した行動が見られた。

上の写真は、見学者が同じチームの学習者の練習風景を見て、他の学習者の安全に配慮した行動の事例である。調査対象である第3時の授業開始17分が経過した頃、あるチームが跳び込み前転練習を始めた。円で囲まれた学習者が見学者である。



授業開始から17分30秒が経過した頃、同チームの練習風景を見ていた見学者が、練習でずれたマットを自主的に直し始めた。その後、見学者は跳び箱の横に留まり、ずれたマットを直す役目をして、他の学習者の安全に配慮した行動をとっていた。



4 考察

以上の結果から、『学び合い』体育の学習では、授業者が安全管理のための方法を学習者に任せ、また、通常の体育授業のように安全管理を行っても、学習者集団はお互いに安全かどうか見合いながら学習を進め、安全に学習を進めるために学習環境を変化させることが考察できる。今回の分析では、一つのチームに着目したが、他の3つのチームにおいても、同様な行動が観察できた。以上のことから、『学び合い』体育で学習者に学習方法を任せることで、学習者は安全に学習を進めることが可能であると考察できる。

5 研究のまとめ

本研究では、西川の提唱する『学び合い』の考え方のもと、体育の学習を進める過程で起こる、学習者の安全面に関する行動について明らかにすることを目的とした。結果、学習者集団は安全に学習を行うために、お互いの安全について見合い、学習環境を変化させ、安全に配慮しながら学習していることが明らかとなった。

6 今後の課題

本研究では、学習者の行動や会話を質的に分析し、事例を示したところで終わっている。今後、本調査のデータを量的に分析し、研究としての精度を上げていく必要がある。また、体育という教室外で行う教科に関してのより適切なデータ採取の方法を構築していくことが今後の課題である。

引用文献

- 1) 文部科学省：「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）」，中央教育審議会，2008.
- 2) 高橋健夫：「体育の授業を創る」，pp.10-24，大修館書店，1994.
- 3) 米村耕平・福ヶ迫喜彦・高橋健夫：「小学校体育授業における『授業の雰囲気』と形成的授業評価との関係についての検討」，体育学研究，49，pp.231-243，2004.
- 4) 西川純：「『座りなさい』を言わない授業」，pp.30-51，東洋館出版社，2004.
- 5) 杵淵眞：「『学び合い』の授業における子ども自身による評価規準づくりの研究」，上越教育大学修士論文，2006.
- 6) 杉本慶子：「学習者による目標の決定と主体的な学びの研究」，上越教育大学修士論文，2003.
- 7) 栗田裕子：「子ども同士の相互作用をいかした体育授業の展開の可能性について」，上越教育大学修士論文，2005.
- 8) 同上書

A Study of Actions Promoting Learners' Personal Safety in Physical Education in "Manabiai"

Yusuke UCHIDA* · Jun NISHIKAWA**

ABSTRACT

The purpose of this study, which focuses on the original concept of "Manabiai" proposed by Nishikawa, is to clarify learner actions promoting personal safety during physical education. During a unit on mat exercises, situations in which all the learners were working and learning to achieve common goals were recorded by video cameras and voice recorders, and actions related to learners' safety were analyzed. We found that even without specific instructions from teachers, learners took safety into consideration by themselves.